風の里　グループホーム

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「納得・共存・勇気」の基本理念のもと、ご利用者お一人おひとりに納得した毎日を過ごしていただくことを第一に考えている。また、GHがご利用者にとって「施設」ではなく「家」であり、GH周辺を「ご近所」と感じていただけるように努めている。		
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は言葉として憶えるものではなく、意味を理解し、心で感じるものだと考えている。また、日々起こる様々な出来事への対応の根拠となるものなので、この理念をはずしては支援できないと職員全員が感じている。		
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、ご利用契約の際はもちろん、ことあるごとに法人・事業所の理念・運営方針を伝え、理解していただけるよう努めている。地域の方々には、日頃のおつきあいや行事を通して、存在を知っていただき、理解していただけるよう努めている。		
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩やゴミだしなどの際、近所の方々と挨拶をかわしたり、庭先で咲く花や飼い犬の話題で立ち話することもある。納涼祭の際は、地域の方々に大勢集まっていただけた。またそれをきっかけに近所の子どもが休みの度に遊びにきたりしている。		
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の町内会は解散してしまったが、地域のお祭りには参加させてもらっている。特に近辺9自治区会が主催する祭りには、実行委員としてかかわった。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で、ご利用者のご家族から、介護が必要となった時に困ってしまったことなどの話がよく出されることもあり、地域で暮らす方々にどんな援助が必要で、事業所として何から取り組めるかについて検討をしている。	○	既存の枠にとらわれず、地域で暮す方々にとって必要と思われることを、積極的に行っていきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自分達の現状を再確認するため、外部評価はそれが独りよがりではないかを確認するために必要であると職員全員が意識し、毎年全員で取り組んでいる。		
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの情報発信に加え、ご利用者・ご家族の疑問や思いなどを必ず伺うようにし、発せられた疑問・ご意見について、また全参加者からの意見も伺うようにしている。出された意見をもとに、取り組むべき課題を検討し、できることはすぐに実践するようにしている。		
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の方々には、疑問な点などについてのアドバイスをいただくことがある。		
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ、制度への理解を深めている。利用者個々のケースを検討する際、制度活用の必要性も視野に入れて考えるようにしている。実際に後見制度を使われている利用者もおられ、担当の司法書士の方とも連絡をとりあっている。		
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を開催し、虐待の種類や背景、防止に向けての取り組みなどについて学習している。万が一にでも虐待が見過ごされることがないよう、利用者の全身状態の確認や、精神的変化などの観察を細かく行なっている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時はしっかり時間をかけ、契約内容、重要事項説明書などについて説明している。その際、ご家族の気持ちを傾聴することを心がけている。		
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者お一人おひとりの気持ちを常に伺うよう努めている。また、職員には言いにくいことを言えるようにと、20年9月より北九州市の介護サービス相談員さんに月2回来ていただき、毎回全員にお話を聞いたいただいている。		
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者からご利用者の状況についての手紙をご家族に送っている。また、2ヶ月に一度発行の事業所頼り「風のひとりごと」で写真月の日常風景を報告している。さらに、ご利用者の方にいつもと違ったこと（事故、健康状態等）があればすぐに連絡を入れている。		
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かあればすぐ話していただけるように、こちらからご意見を伺ったりするなどしている。苦情の受付者として、介護サービス相談員、法人の第三者委員や関係機関などをご紹介している。いただいたご意見等は職員全員に伝え、改善するように努めている。		
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	公式の場としては、月に一度ミーティングを行い、意見を聞くようにしている。それ以外でも、一人ひとりの職員の意見を日常的に聞くようにし、事業所として改善に向け取り組むべき課題があれば、すぐに対応するように努めている。		
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制については、現場の職員の意見を聞き、必要に応じて変えている。また、日常的には、ご利用者の希望（受診、買い物、美容室等）に対応できるよう、勤務を調整している。		
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に食い止めるためにも、職員一人ひとりの気持ちの把握に努めている。職員の異動があった場合、ご利用者・ご家族の不安解消のために、すぐにお知らせしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の募集・採用に当たり、性別・年齢の制限は設けていない。採用後も、職員一人ひとりが個性を生かし、生きがいをもって仕事ができるように配慮している。		
20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入社時のオリエンテーションでは、認知症への理解を含め、人を大切にすることについて、特に力を入れて話をしている。入社後も、事業所内外での研修や日々の関わりの中で人権についての意識を高めるように取り組んでいる。		
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、その後の事業所内研修、外部研修への参加などを行っている。また、実践の場において、すぐその場で上司や先輩のアドバイスを受けられるようにしている。		
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで知り合った同業者の方を通して、他グループホームに見学に行ったり、反対に見学に来られたりという交流を持ったことがよい刺激となった。		
23	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを溜め込まず、いつでも相談できるという雰囲気つくりに努めている。ストレスの原因を見つけ、発想の転換をすることで、ストレスの軽減につなげている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの長所を見極め、それが生かせるように言葉かけをしている。成功時には褒め、困っているときには助言を行い、成功へつなげていくことで、向上心を持てるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用についてのご相談後、入居前までに必ずご本人と面接し、ご本人が困っていること、不安なこと、現在の状態・状況などを聞く機会をなるべく多く持つようにしている。また、可能なら、入所前に来ていただき、入所を納得していただくようにしている。		
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談面接、利用申し込み時の面接、入居前の面接などの機会に、じっくりとお話を伺うようにしている。		
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、GHへの入居の必要性の緊急性を検討するとともに、即入居が不可能な状況であったり、即入居が不必要な状況の場合、現在の生活を支えるために必要なことを、ご相談者とともに考えるようにしている。		
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご自宅や病院等に面会に行ったり、反対にGHに足を運んでもらったりして、顔なじみになるように努めている。また、居室をご本人さんの馴染みの深い空間にするために、今まで使用していた家具等を持ち込んでもらって環境作りをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし支えあう関係」は法人の理念「共存」そのままで、職員はとても大切に考えている。生活の中で、ご利用者ができる家事はお願いしたり、やり方を教えてもらったり、TVを見る時も会話したり、笑いあったりしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームをご利用者の家だとご家族に思っていただき、気軽に訪ねていただくことで、ご本人さんがいつも身近な存在であり続けるように工夫したり、ご家族にしか出来ない支援をお願いしたりしている。		
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご本人・ご家族の関係を聞くとともに、グループホームでの生活状況を報告し、現在の状況を理解してもらうことで、よい関係はそのまま継続してもらい、不満・不和などについては、お互いの誤解を解くなど、役に立てるように努めている。		
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に限らず、馴染みの方にはいつでも来ていただけるように声かけをしている。ご本人さんが「行きたい」と希望される場所には、職員同伴、もしくはご家族の方に依頼して行けるように努めている。		
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が自然に会話し、お互いを受けあいないがら暮せるように、ご利用者同士の人間関係をよく把握し、時には職員が間に入りながら、楽しい雰囲気つくりをしている。実際、自然にリビングに人が集まり、当たり前のように会話されている。		
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院継続のため退所となったご利用者について、ご家族にアドバイスしたり、病院へのお見舞いを継続したりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の好き嫌いや食事の時間帯をはじめ、お一人おひとりの希望を取り入れ配慮している。ご自分の思いを伝えられない方は、ご家族に話を聞いたり、生活の中から発見したりして、その方にとってよりよい生活が送れるように支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の面接だけでなく、ご本人やご家族との日常的な会話から、生活歴や今までの暮し方などを把握し、スタッフ間で情報共有するように努めている。特にご本人との日常会話から得られる情報は多い。		
37	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしのあらゆる場面で、関わりをもちながら、利用者の行動や表情、心の動きなどを観察するようにしている。職員それぞれがそれぞれの目で観察した情報を集約することで、ご利用者の像が立体的に見えてくることも多い。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	定期的及び随時（大きな変化があったとき）には必ずご本人、ご家族を交えたカンファレンスを行い、希望をうかがうようにしている。また、日頃の生活の中でご本人が望むことを見逃さないようにし、職員間で情報交換し、介護計画に生かすようにしている。		
39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度はカンファレンスを行い、状態にあった介護計画を作成している。また、見直し時期前でも、大きな変化があった場合には臨時にカンファレンスを行い、介護計画を変更している。		
40	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、日々観察すべきこと、対応すべきことなどを「ケアプログラム」として細かく立案し、それに基づいた記録を行うことで、介護計画の見直し等に生かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間面会可能とし、さらにご家族にグループホームで宿泊してもらったり、食事を共にしてもらったりなどしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護サービス相談員さんや傾聴ボランティアさん・レクリエーションボランティアさんなど、地域の方の協力を得て、生活の中に安心や楽しみを増やしている。		
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人さんの意向や必要性があれば、事業所内だけで抱え込まず、他のサービスの利用なども含め、多角的に検討していきたい。		
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員さんに運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをいただいている。		
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望のかかりつけ医があれば、その要望に答え、希望がない場合には、グループホームのかかりつけ医に往診をたのんでいる。受診には職員又はご家族が付き添い、情報を共有している。		
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の精神科病院に協力病院を依頼し、必要時受診し、認知症についての専門的診断・治療をお願いしたり、対応についてのアドバイスをいただいたりしている。		
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと連携をとり、日常的な健康管理を行っている。24時間連絡可能となっているので、気になること、相談などに気軽に応じてもらっている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院された場合は、頻繁に面会に行き関係が途絶えないようにしている。また、入院時にGHでの医療体制(往診・訪問看護)について病院に伝え、生活環境の変化を最小限にするために早期の退院をお願いしたり、退院時には、病院から退院後の生活の注意点など聞くようにしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、利用前の面接時からご意向を伺ったり、グループホームとしての考えを伝えたりしている。入居後のカンファレンスの中でも触れるようにしている。	○	終末期に起こること、主にご家族が決断しなければならないこと、安楽に過ごせる支援の方法など、ご家族とともに勉強していきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今年度往診医が変更になったが、その際、事業所の方針として、ご利用者・ご家族の希望があればターミナルケアを行うことを伝え、協力をお願いした。また、ターミナルケアについてのマニュアルの原案を作成し、修正作業を重ねているところである。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージについて、職員全員がよく理解するようにし、住み替えの際には、使い慣れたものをそのまま使ったり、顔なじみの人が付き添ったりするようにと考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お一人おひとりの行動について、何か意味があってされていると理解し対応することこそが、尊厳を守ることと考えている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いろいろな場面で選択してもらったり、希望を聞くようにしている。また、行動する前に必ず説明し、納得してもらうようにしている。日頃のちょっとした会話や表情にも気をつけ、ご利用者の本音を汲み取れるよう観察をしている。		
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何でもやりたいときがタイミング」と思い、せかせたり無理強いしたりしないようにしている。職員がゆっくり過ごすことで利用者もゆっくりできる、ということを実感している。	○	今後、ご利用者が認知症の進行により、自分の意志が表現できなくなったり、一人でできないことが多くなってきても、気持ちを汲み取り、いつまでもその人らしく暮らしていただけるように、側面から支え続けていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の理美容がある方は、希望の店にお連れしている。訪問理美容も取り入れている。また、起床時、入浴時にはご自分で服を選んでいただいたり、お化粧していただいたり、おしゃれを楽しんでもらっている。		
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備、食後の後片付けなども楽しみの一環として職員と一緒にしていただいている。味付けやメニューの提案など、利用者の希望にも対応している。食事中の会話もポイントと考えている。		
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	移動パン屋、近所のスーパー、コンビニなどに、散歩をかねて行ったり、車で行ったりして、お好きなパンや嗜好品などを買ってもらっている。		
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人おひとりの排泄パターンを把握し、声かえ誘導を行い、気持ちよく排泄してもらっている。紙おむつ・紙パンツ使用時の不快感をなくすため、ご利用者全員、布パンツ（一部パット使用）での対応をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はあらかじめ決めているが、その時の状態や気持ちにあわせて対応している。ご利用者によって、入浴頻度の希望や時間帯から、湯船につかる時間や湯温まで異なるので、情報を職員間で共有し、ご本人さんがゆったりとくつろげるように工夫している。		
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人おひとりの睡眠パターンや昼間の休息パターンを把握し、それを乱さないようにしている。また、状況によっては、例えばリビングで朝を迎えたり、普段着のままで眠ってしまっても「よくないこと」と思わず、一番気持ちよく眠れるようにを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の得意なものを見つけた上で、配膳の準備、洗濯物干し、洗濯物たたみ、鉢植えの世話など役割をもってもらっている。好みに合わせ、手芸活動、歌番組にあわせう歌をうたうなどの活動を楽しんでもらっている。		
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる人には(できなくてもご家族が了承されれば)、お金を所持してもらい、買い物などを楽しんでもらっている。難しい方については、事業所で立替え、買い物してもらっている。		
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日など、「外は気持ちよさそう」と会話の中で言葉が出るとそのまま近くの公園に行ったりベランダでお茶を楽しんだりしている。また、花見など季節感を味わえる外出や、外食なども楽しんでいただいている。		
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員ともに皆で行く花見や外食の機会もあるが、個別にご利用者が望む場所へ行く支援も行っている。今年度は、幼い頃に過ごした故郷へご家族とともに旅行するご利用者がいたり、親戚の方のお店で誕生祝いの食事を楽しまれる方がおられた。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人さんがいつでも自ら連絡したい時に連絡できるよう支援している。ご家族に電話したり、手紙を書くことが楽しみな方もおられる。普段自ら希望がない方には、手紙を書いてみませんかと声をかけ、自筆の手紙をご家族に送り、喜んでいただいている。		
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間面会可能とし、いつでも気軽に訪問してもらえるようにしている。面会時は、居室で過ごされるだけでなく、リビングで皆さんとの会話を楽しまれることもよくある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会、マニュアルを通じ、職員全体が身体拘束について理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。実際、拘束はないし、拘束しなければいけないという職員からの発案もない。		
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることについての弊害については、職員はもちろん、ご家族にも理解していただいている。実際、日中は鍵はかけていないので、玄関の出入りにいつも気を配り、ご利用者の所在確認を職員同士が声に出して行うようにしている。		
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーに配慮しながら、声かけ、見守りを行っている。特に昼間は施錠しない分、所在確認には注意を払い、リビングに姿が見えない場合、機会あるごとにさりげなくお部屋に声かけをするようにしている。		
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全員一律の持ち込み禁止品等はない。自己管理ができる方は、果物ナイフや爪切りなどを持っておられるが、その場合も、ナイフの所在やご本人さんの能力を把握した上で行っている。		
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のご利用者の行動の傾向を把握することが一番の事故防止策であると考えている。それに加え、起こりやすい事故についてはマニュアルを作り、事故やインシデントの情報を回覧し、職員全員で共有するようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学習会で、急変時や事故発生時などの訓練を行っている。また、かかりつけ医より急変時の対応についてのマニュアルをもらい、日頃から目を通し、いざというときにあわてないように心掛けている。		
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを作成。それに基づいて避難訓練も行っている。同じビルの上階の人にも協力をお願いしている。		
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、ご家族に対し、高齢者に一般的なリスクについて説明し、カンファレンスなどの機会をとらえ、お一人おひとりに高リスクと考えられることについて話合うようにしている。ご家族には、リスク軽減の努力は十分に行うが、行動の制限はしたくないということを理解していただくようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変の発見の大前提として、通常の状態をよく把握しておき、バイタルサインからだけではなく、表情、行動など日常生活の状況から体調の変化に気付けるようにしている。気付いたときには、かかりつけ医、訪問看護師に相談し、職員間で情報を共有している。		
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬情報をファイリングし、薬の意味を理解するようにしている。受診・往診後、薬に変更があった際は、記録に残し、職員で情報を共有するようにしている。また、新しい薬の服用後は状態を観察し、記録に残すようにしている。		
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分摂取量の観察、排便リズムの把握を徹底している。できるだけ下剤を使用しないよう、食材料を工夫している。排便状況を必ずチェックしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食前と毎食後に口腔ケア（介助や声かけ）を行っている。うがいは煎茶に塩を混ぜたもので行い、冬場は夕食後イソジン液を用いて行っている。		
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量についての情報収集及び観察を行い、その方にあった摂取量を提供している。気分や体調により食事量が十分でない時には、メニュー以外の好みの食べ物や栄養補助食品などで補給している。		
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	各感染症について、防止・万延防止マニュアルを作成し、学習会のプログラムに入れている。日常的な衛生管理を徹底したり、手洗い、口腔ケアに力を入れている。		
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材選びに注意している。また、調理器具などは毎日必ず次亜塩素酸で消毒するようにしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭の玄関のようにしたいと考えている。片付き過ぎず、散らかり過ぎずという雰囲気を目指している。玄関には日中鍵をかけず、入りやすい雰囲気を作っている。		
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いことを利点にし、リビングからベランダの洗濯ものが見えたり、調理の風景や、香り、音などを楽しんだりと、家庭的な雰囲気、生活感のある空間作りに取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル、ソファーなどいくつかの居場所を用意し、気のあった利用者同士やみんなで楽しく過ごせる場作りをしている。		
85	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使っておられたものや馴染みのものを持ってきていただき、住み慣れた居室作りに協力してもらっている。入り口には表札を作り、自分の家であることを認識してもらっている。		
86	**○換気・空調の配慮** 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回の換気や温度調整に加え、冬場は加湿も行っている。ご利用者の状況にも合わせて居室のエアコンの温度調整も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	**○身体機能を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部すべてがバリアフリーになっており、トイレは車椅子でも対応できるように広くとり、残存機能が生かせるように、手すりの位置なども工夫した。		
88	**○わかる力を活かした環境づくり** 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お一人おひとりの状態を把握し、その方にあった声かけを行ったり、行動の見本をさりげなく示すことで、混乱や失敗をふせいでいる。		
89	**○建物の外周りや空間の活用** 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにプランターで花を育てている。自由に居室からベランダに出て花の水やりを日課として楽しまれている方もおられる。成長した花はリビングに飾り楽しんでいる。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「納得・共存・勇気」の理念を掲げ、職員全員で理念の実現を目指しています。理念はお題目ではなく、日常の具体的な場面でこそ感じ続けるものだと考えています。ご利用者も職員も自分らしく（気を許して）過ごせることが一番だと思っていますので、特別なことは何もしていません。生活の現実的な部分が快適であり、流れる空気が暖かく、穏やかでありたいと考えています。